

カラー漫画 50P超



女騎士×芋虫
種付け・妊娠・出産 戦記

～登場キャラ紹介～

ヘレナ

村の被害を受け王都から派遣された騎士
剣の腕は一流で仲間からの信頼も厚い
スタイル抜群で頻繁に交際を申し込まれる
本人は恋愛に興味が無い



芋虫

残飯虫・肥溜め虫など
地域によって呼称が変わる
農作物を食い荒らす害虫として
農民の間ではそこそこ有名
仕留めても金にならないので
誰も狩りたがらない

「畑の作物を食い荒らす害獣を駆除して欲しい」
そんな村人達の依頼を受け
洞窟に訪れた私の目の前に
現れたのは

こんな雑魚が
犯人とはな

お前に恨みはないが
これも任務だ

悪く思うなよ

拍子抜けだ

獣などではなくただの大きな
下級蟲モンスターだった

この時
私は油断していた

この程度の雑魚にこの私が
負けるなどありえないと

カチャ……

剣を芋虫に振り下ろそうとした瞬間
私は急にめまいをおぼえ
意識を失ってしまった

蟲は私が剣を抜く前に
口から毒息を吐き出していたのだ

どれだけの時間
意識を失っていたのかはわからない

肌にへばりつく粘ついた感触と
下腹部の圧迫感で目を覚ました

悍ましい光景が目飛び込んできた
目の前には私の身体にへばりつく巨大な芋虫

蟲は無抵抗な私の膣内に粘液まみれの
汚い生殖器を挿入した

ふざけるなッ!!

離れろッ!

抵抗しようにも毒で体の自由が効かず
武器も装備も見当たらない

そんな汚いモノを
私の中に挿れるなあ!!

抜け...えッ!

ギッ
ッ

ギッ
ッ

ド
ン
ッ

ギョッ！！

おっ!!

唯一動く口を使つて
抵抗しようとするものの

虫ケラが調子に
乗るな...ッ!

悪臭のする舌を口内に
ねじ込まれてしまう



上も下も糞がったまま
互いの粘液と涎を絡ませる様は
交尾そのものだっただ



やがて膣の中で蟲の生殖器が一際大きく膨らんだと思つた瞬間



蟲は私の膣内で大量の精液を吐き出した



尋常じゃない量の蟲の精液が私の子宮の中へどんどん流し込まれていく

長い長い射精が終わ
生殖器がゆつくりと腫
から引き抜かれる

ぼつかり開いた腫口からは子宮に
収まりきらなかった蟲の精液が
どろどろと流れ出てきた

種付けを終え満足した蟲が3本の舌で
乳頭をしゃぶっているのを見て

私は直感でこの蟲は
私を孕ませるつもり
なのだとして理解した



それから蟲に種付けされる日々が始まった



蟲は私を殺そうとも喰べようともせず
毎日毎日精液が出なくなるまで私を犯す

蟲の性欲は底無しで
交尾していない時間の方が短いほど



一向に弱まる気配の無い毒のせい
私は芋虫の便利な肉穴に成り下がっていた

痺れる身体でどうにか抵抗しようとしても
蟲は交尾をやめようとはしない

はじめはじめとした洞窟の中には
体液や粘液が混ざり合った
交尾の匂いが充満していた

おやおおッ!!



子宮には毎日のように
蟲の精液を注がれる

ドボドボドボッ

餓死することさえできないまま
毎日蟲と交尾させられた

いすれ私に飽きたら殺してくれませんか？
蟲の苗床として生かされる日々の中で
そんなことを考えるようになった



だが蟲が私に飽きる様子は無く

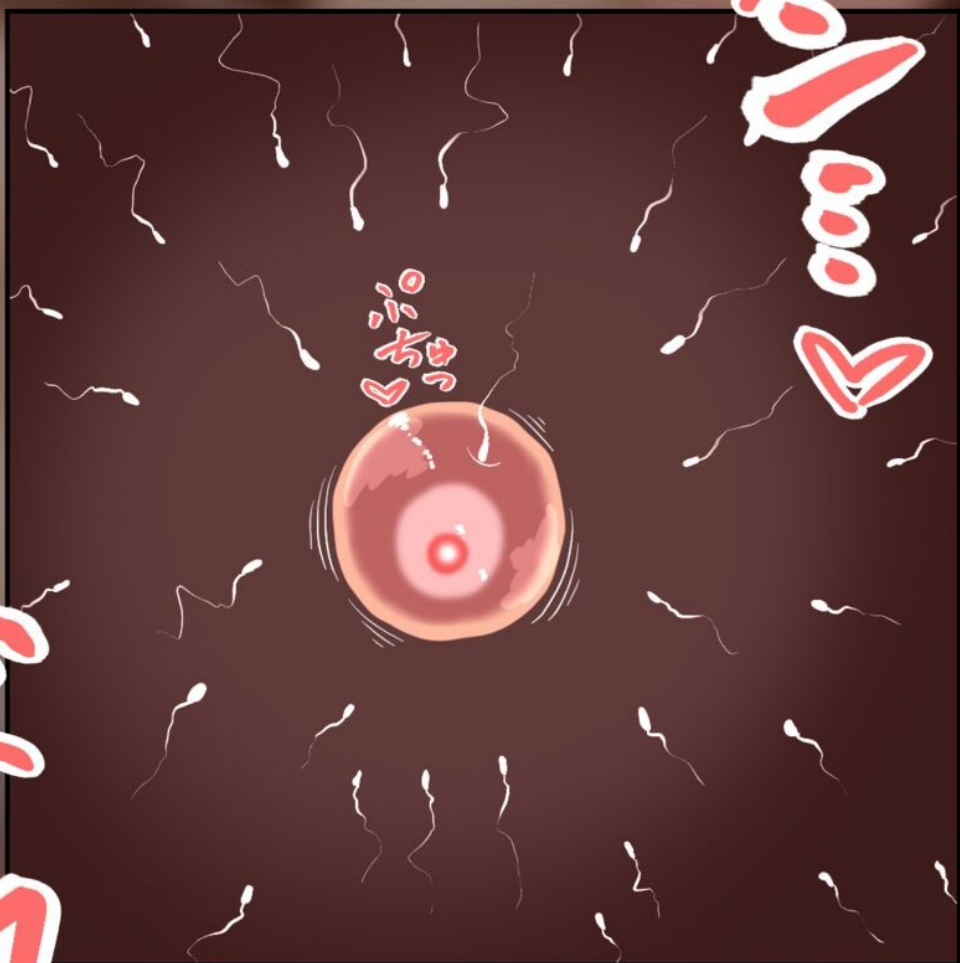
私はこの地獄が永遠に続くのではないかと絶望し
考える気も抵抗する気力も失っていった



しかし

本当の地獄はまだ始まつてもいなかった！

ドク！



ドン！

身体に違和感を覚えたのは
巢穴に来てしばらく経つてから

吐き気を催す事が多くなり
腹部がふつくりと膨らんできた

違和感の正体にはすぐに気づいた

しかし毒で動かない身体では
どうすることもできない

最初はほんのわずかな膨らんでいただけの腹部も
目に見えて大きくなつていった

私は遂に芋虫の仔を妊娠してしまった

ベッ
イ
リ

うん...
グロ
グロ
グロ

うん...
グロ
グロ

幼虫の成長と共に腹部の丸みも
重さもどんどん増している

腹の中には既に仔がいる
のにも関わらず
蟲が私との交尾をやめる
ことはなかった

ボ
イ
ッ
ッ
ッ

ビ
ン
ッ

ビ
ン
ッ

グ
チュ
ッ

グ
チュ
ッ



時折胎の中で動く生き物が人間の形を
成していかないことを私は感じ取っていた

だがここまで育ってしまっでは
どうすることもできない

胎の子はすくすくと
育つていった



蟲は私が妊婦になっても
毎日のように交尾を迫る

アッ♡

アッ♡

アッ♡

グッ♡

騎士として
そして女としての
尊厳をこんな下等生物に
穢されたことが屈辱で
涙が止まらなかった

仔を孕まされてもなお
肉穴として性欲の
捌け口にされる日々

ギイ♡

アッ♡

アッ♡



蟲は今日も妊娠中の私の臍内に
大量の精液を吐き出す

臍内射精と同時に母乳が吹き出し
それを美味しそうに蟲が飲んでい

蟲の仔を孕んだ私の身体は
変わってしまった

自分の身体がこの蟲のモノになってしまった
と私は認めたくなかった



蟲は私が妊娠したことに気づいてから様子が変わった

以前のように乱暴に犯すのではなくゆっくり時間をかけて交尾をするようになったのだ



おそらくこの蟲はただ本能に従って種付けしているわけではない

胎の中の仔を気づかいつつ交尾という行為そのものを楽しんでる



[illegible]

妊娠後の執拗な交尾はある意味
以前の激しい種付けより不快だ

まるで自ら蟲を受け入れて
いるかのように錯覚するう

行為中母乳が噴き出ると蟲は生殖器が繋がったまま
美味しそうに母乳を囓る



抜かすに何度も射精された膣内からは
収まりきらなかつた精液がとめどなく
溢れ出ていた

さっさと抜け……ッ！

うわ……！

蟲が母乳をたらふく飲んで
腹ごしらえを済ませれば
再び長い交尾が始まる

無様な肉穴となった私の膣は
蟲の生殖器を拒絶するどころか
交尾をねだるかのよう
に
咥え込んで離さない



やつと交尾を終えても今度は乳房に吸い付いて離れなくなる



どうやら外で仕留める獲物より私の母乳の方がコイツの好みらしい

細長い舌でベロベロと乳首なめ回し



妊娠しているせいなのかはわからないが必死に乳房をしゃぶる蟲を見ていると



今まで感じたことのないむず痒い感情が胸の中に湧いて私は困惑していた...

母乳を吸い出すこれをずっと繰り返すのだ



ある日
ヤツが餌を探しに外に出ている時

鈍い痛みを感じたと同時に
母乳が吹き出た



ついにこの時がやってきたのだと悟る
蟲の仔が外に出ようと腹の中で動き回っていた



あんな化け物の仔を産む覚悟など
できていないはずがない!!

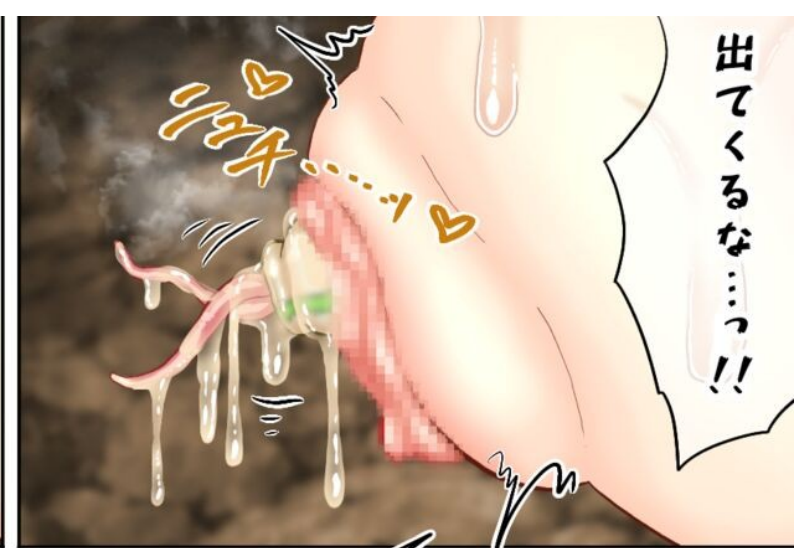
陣痛の間隔が徐々に短くなっている

蟲の仔はいとも簡単に子宮口を抜けて
膣口を目指し産道を進みはじめる

産まずに済む方法は無いかと
必死に思考を巡らせるが

私は足を大きく開いた
無様な格好になった
動けなくなつた





産みたくない

嫌だ



産んでしまった

芋虫の子を産んでしまった



…コレを私が？

どう見ても芋虫…

信じられない

私が産んだなんて



私が…

私が産んだ

私の…

赤ちゃん…♡



産まれてきたのは殆どがヤツと瓜二つの見た目をした芋虫だった

唯一私の子だと判別できる部分は
胴体の緑色の模様とお互いを繋ぐへその緒のみ

そんな悍ましい生き物を産んだというのに

不思議なことに私はショックを受けることもなく
気色悪いとすら思わなかった

私を母親だと認識しているのだろう
短い足を懸命に動かしながらこちらへ這ってくる
芋虫を見ているうちに

私の胸の奥で温かい感情が芽生えていた

生まれたての幼虫は小さな口を開け
母乳を求めて乳首にしゃぶりついてきた

どのくらい飲ませて
いいんだ…?

引き剥がすなど容易だが
こんな小さな蟲にムキにな
つてもしょうがない



食欲旺盛な赤ん坊だ

蟲とはいえ私の血が
流れているのだから当然か



ただこの乳首を執拗に舐め回すしぐさは…



嫌でも父親の蟲を
連想してしまう



ほどなくして巢穴に帰ってきた
父親の蟲は

幼虫に気づくや否や私に飛びついて
嬉しそうに顔中を舐め回してきた

?

?

無理矢理産ませた
んだらうが...

んんん

ギィ

ギィ

ピィ?

幼虫は初めて会う父親に最初は警戒している
様子だったが

すぐに父親だと気づいたらしく興味津々の様子で
なにやらコミュニケーションをとり始めた

2匹がどんなやり取りをしているか
わからないのが少し気に入らない!!

ギィ!

ピィ!

んんん

ド...

親子の蟲は決して私から離れようとしなかった

この子の分が無くなった
どうするんだ

ぢゅるるる♡♡

コイツは幼虫が眠ると次は俺の番だと
言わんばかりに乳房にしゃぶりついて離れない



仔を産ませればそれで用済み
というわけではないらしい

仔を産んだせい
か
蟲は私に従順な雌
と思ひ込み
毒で身体
の自由を奪うこと
をしなくなつた

身体さえ自由にな
れば巢穴から逃
げることも容
易い

だが産まれた幼虫
をどうすればいい
のか
それだけが頭に引
つかかつていた

決して蟲などに情
が湧いたわけでは
ない
産み落とした私の
責任の問題だ

母乳無しにこの幼
虫が育つことはで
きるだろうか？
この蟲が子育てな
どできるのか？
かといつて人間の
世界で生きていく
ことはできないだ
ろう

答えが出ないまま
2匹との生活は続
いた…



悩んだ末に私は決めた
この幼虫が1匹でも生きていけるようになるまでは面倒を見て



そのあと巣を去ることにした

しかし蟲の子育ては一筋縄ではいかない

ほら
もう充分だろう

朝の乳は
ここまです

まず一番の課題は
2匹の乳離れ

その他にもまだまだ
課題は山積みだ

おいっ!!

なんで
そうなる!!

ギョッ♡

アッ♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

ギョッ!

ギョッ!

トロ♡

ギョッ♡



身体が自由を取り戻した今
自力で食料を集めるぐらい
造作もないことだが

幼虫が私から離れようとしらないので



まったく

姿が似ている父親なら
まだしも私に懐くとは

げん
ぶできたな

ググ

ムニ

ムニ

ん

ん

一刻も早く母離れしてほしいというのに
手のかかる面倒のかかる仔だ



近頃この甘えん坊の世話をしていることがある

ねばねば♡

授乳中生殖器を勃起させるように
なつてしまったのだ

ビシッ♡

本人は勃起に気づいている様子もなく
夢中で母乳を飲んで

ちゅ♡ちゅ♡

ぐゅ♡ぐゅ♡

まったく…
アイツに
そっくりだ

ビシッ♡

ビシッ♡

蟲の本能が母親である私を繁殖相手と
認識しているのかもしれない…

「っ♡

私は仕方なくこの子に変な気を
起こす前に精通させてやることにした

こんなに
大きくして…

ほら
じっとしてろ

大好きな乳房で挟んでやると
幼虫は簡単に大人しくなる

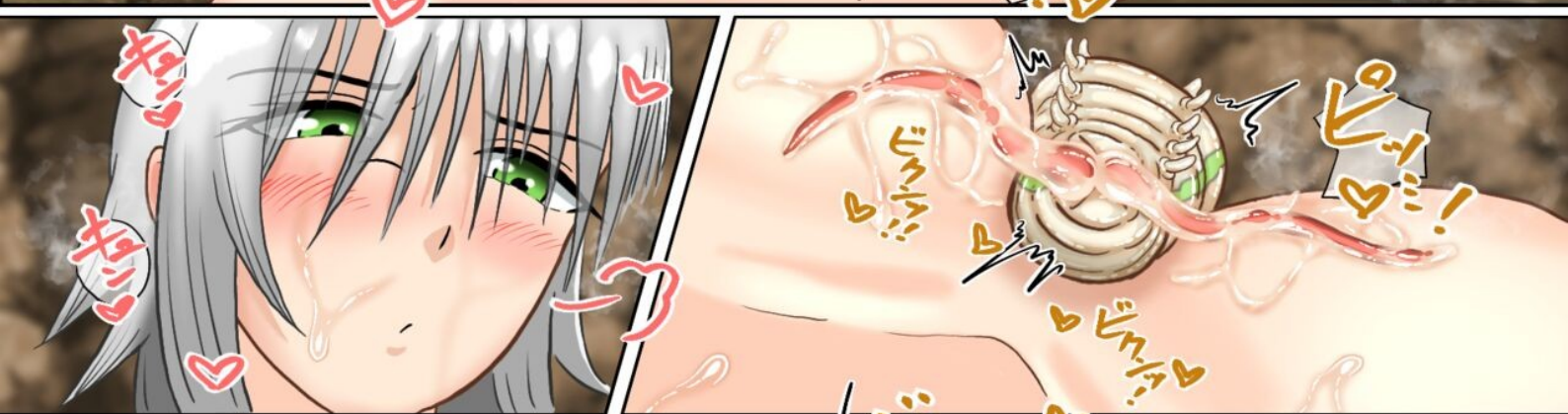
太くて長い生殖器からは産まれたばかり
とは思えない濃い雄の匂いがした



しばらく生殖器を上下にしごいてみると
幼虫は初めての射精をした



よほど気持ち良かったのか
射精と同時に胴体をのけぞらせ
ビクビクと痙攣してしばらく動けなくなっていました



母親に射精させて
もらって気絶とは

情けない息子である

母乳離れどころか乳離れもできず乳房が大好きで寝る時も離れられないというのに

授乳の時から寝る時まで
当然自分ではできないから
私が弄つてやらなければなら
ない



やがて手でしてもらっただけでは満足できなくなった幼虫は

どろで
ソムなソムな...

んっ♡

ブキョウッ!!♡

ブキョウッ♡

両乳の谷間に生殖器を挿し込んで、打ち付けるようになった

ブキョウッ!!♡

大量の精液を谷間に吐き出す

乳房に種付けするかのよう激しく打ち付けて

ブキョウッ!!♡

ブキョウッ!!♡

ブキョウッ♡

ブキョウッ!!♡

んっ♡



射精も一度や二度ではない

ベトオ....♡

幼虫が満足する頃は
乳房はいつも精液まみれ

射精の量も回数も
日に日に増えていった

〜Ski...♡

ビィ♡!

ビィ♡!

※訳 おなかへった!

ドォ...♡

出産からしばらく経ち幼虫は体も大きくなり射精までできるようになった



そろそろ乳離れぐらい...
せめて1匹で眠れるようになってほしいところなのだが



子育ては思ったように
上手くはいかず



こいつらの母としての生活が
どんどん長引いている

大変なのは幼虫の面倒を見る
ことだけではない

ギィッ！

コイツまた…ッ！

アチュッ

外から帰ってきた蟲の相手も
本当に骨が折れる

ギィ…

んっ！

ムプププ…ッ

やつと寝かしつけたばかりだというのに
私の苦勞など知らず当然のように交尾をはじめる

ギィッ！

ギィ

グッ！

ムチャッ

グッ！

グッ！

グッ！

グッ！

グッ！

うーっ

思い切りひっ叩いてやりたい…が
この子が起きてしまうから我慢するしかない



一日溜め込んだネバネバの
精液を子宮に流し込む



コイツの種付けは長くしつこい

又チャッ♡

チキッ♡

ギイ♡

ギイ♡

ビュッ♡

トッ♡

トッ♡

ビュッ♡

幼虫を起こさないために
場所を移して交尾の相手を
しななければならないが

蟲の交尾など
あっという間に終わる

ビュッ!!♡

ビュッ♡

ビュッ♡

ビュッ♡

ドポ♡
ドポッ♡

ドクッ♡
ドクッ♡

ズッ♡
ズッ♡
ズッ♡

ギイ♡

ギイ♡

ビュッ♡

トッ♡

トッ♡

トッ♡

トッ♡

私はただ身体を使わせてやればいい



蟲は時に私の肛門まで犯す
おそろくツイツは毒を
使わなくとも逆らわない私を



從順で子どもを孕み
産み育ててくれる
便利な子袋とでも
思っているのだろう

だとすればら蟲らしい単純なヤツだ
この私が芋虫の苗床になどなるわけがない

にゅわん...♡

ん

にゅわん♡

べっ♡

まだ
するの
か

ぎゅ♡

たろ♡♡

ちゅ♡

にゅ♡

ちゅ♡

そもそも私がその気になればこんな
巢穴いつでもおさらばできるんだ

せいぜい幼虫が育つまでのわずかな間



たかが1匹蟲を産ませたぐらいで

母乳が...

ぎゅ

ピュッ♡

ギィ♡

ん♡

止まらない...ッ

ずい♡

ピュッ♡

ピュッ♡

ピュッ♡

アッ♡

アッ♡

満杯♡

ブッ♡

ド...♡

ピュッ♡

私が騎士としての誇りを捨てると思ったら大間違いだ





起きたのかッ

まずい! 阿ッ! 阿ッ! 阿ッ!

まずい!



私がいけないことに気づき夜泣きした幼虫は
母乳を飲ませてやると安心してそのまま眠った

ん♡

スピー

スピー

さす♡

さす♡

さす♡

ようやく
落ち着いたか

それもこれも
ツイの交尾だ
しつこいせいだ

♡
チュパ♡

♡
チュパ♡

どうやらこの子が一人前の
蟲に育つまではもう少し
時間が必要らしい

ウジャ

ウジャ

♡
ツパン♡

ウジャ

帰りたいたいの山々だが
子育てが終わるまでは
我慢するでしょう

to be continued?

ご購入いただきありがとうございます

人生初の漫画作品でした
案の定蟲のデザインが過去作からほぼ変わっていませんが
目を瞑っていたただけると幸いです

最初の数ページと比べ
後半蟲のデザインがやや変わっております
時間が足らず修正を諦めました
申し訳ありません

続編は反響次第で検討する次第です